

NPO 法人流山市国際交流協会



# NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会  
 〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F  
 国際理解サポートセンター内  
 ☎ : 04-7128-6007  
 Email:nifa-support@bz04.plala.or.jp  
 http/nifa-home.sakura.ne.jp/

## 「広げよう世界の友と地域の輪」 NIFA はこれで動いています

NIFA 創立 30 周年を記念し、会員の皆様から募った標語の最優秀作品。  
 作者は内藤茂昭さん（外国語支援事業部）です。  
 私たちは事業部や全体の活動を通じてこの標語を広く、深めていきます。

NIFA の  
 ロゴマーク、  
 何に見える？



このマークは、流山市の頭文字「な」を人に見立て、地球をバックに国際交流している姿を表現したものです。  
 1992 年(平成 4 年)6 月に公募総数 206 点から選ばれました。  
 作者は、永岡義國氏(千葉市花見川区・当時)です。

### 外国語支援事業部



日々の暮らしに必要な情報、災害時の情報、教育や医療・福祉の情報、仕組などについて外国からの方の目線で必要なサポートをします。

英語、韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語での対応 OK。他の言語でも支援ができるようになれば、そして大勢参加してくだされば心強いです。

### 日本語講座事業部



日本に住み、暮らし、仕事を沿った、ほぼマンツーマンのきめ細かな授業。現在受講者が増えています。講師として参加して下さる方学生にもそれぞれの希望に大歓迎です。

### 外国語講座事業部

ことばは、その国を知る入り口、NIFA の講座がそのサポートをします。韓国語、中国語、スペイン語、英語の授業はレベル別に。覚えた言葉を街に出て、そして NIFA で活かしませんか。



### ホームステイ事業部

ホームステイは異文化交流の最もよい方法の一つ。ステイする人にもファミリーにも。互いに会った経験は、ずっと心に残ります。そんな人が世界に沢山増えれば。普段着の日本に触れてみたい、そう希望する、特に外国からの学生ももっといませんか。



### イベント企画グループ

外国の方を招いてお国を紹介してもらおう「世界を知ろう」、料理教室、子供向け英語プログラムなどのほか、市民まつりへの出展、公民館などの共催イベントを企画、開催しています。事業部にかかわらず皆様で取り組みます。

### 文化交流事業部

世界の歌を原語で歌うとその国のことがわかるような気分。ワールドハーモニーはそれが楽しみ。優雅さと運動量で美と健康を保つ Fan Dance。中国の舞踊、木欄扇を私たちがアレンジして楽しんでいます。大勢の仲間がいるととっても楽しい♪



### NIFA 全体の事業

国際理解サポートセンターの相談業務や、オランダ招致関連の事業を委託として行っています。

### NIFA 全体の運営

会長、副会長、事務局、総務部、経理部、広報部がスタッフです。縁の下の力持ちであり、全体の後押し役、時に牽引車にもなります。

### NIFA の会議

総会、理事会は年 1 回以上の法定の会議。他に運営会議（本部役員+事業部長）、本部会議を定例で開催、プロジェクトは横断的の会議で運営します。

## ～ 今なら笑えることも。日本でのびっくり、さあ困ったの体験 ～

日本で暮らしている外国出身会員の方に聞きました。(書面で)

- Q.1** 日本でお国の文化や習慣との違いに戸惑ったことはありますか？  
**Q.2** 困ったことはどのように解決しましたか？  
**Q.3** 日本の人はあなたを助けたい、手伝ってくれましたか？



上村エレナさん(ラトビア共和国 2007年来日)

**Q.1** 1) お風呂のお湯を抜いてしまったこと。初めて日本に来た時、夫の実家で一番風呂に入り、自分が入り終わってからお湯を全部抜いてしまった。夫も家族もみんなびっくりしてお湯がなくなったああああと叫んでいた。日本ではお湯を抜かずに家族全員がつかることにとても驚いた。

2) 長女を連れて外出した時、見知らぬ人たちが「かわいい」と言って娘を触ったことにびっくりした。ラトビアでは、赤ちゃんはか弱くて大事な存在なので知らない人は触ってはいけない。知らない人たちが娘を触るので泣きそうになった。家に帰ってから、日本人は赤ちゃんが好きで可愛いから触ろうとしているだけで、悪気はないということがわかった。

3) 日本で長男を出産し退院しようとした時、看護師から「忘れ物がありますよ！」と言われて渡されたのがへその緒だった。ラトビアではへその緒を持って帰らないのでびっくりしました。

**Q.3** 来日したばかりの頃は友達もおらず、日本語も不自由だった。娘も小さかったので日本語学校にも通えなかった。ボランティアの日本語教室に通って日本語を勉強し友達ができた。それから日本語が上達し日本の生活も楽しくなった。



李柔琳(イユリム)さん(韓国 2019年9月来日)

**Q.1** 韓国では勘定をする時ほとんどカードを使いました。日本に来て最初はカードを使っていたが、自然に現金を使いました。韓国で現金を使う時は小銭をあまり使いませんでした。しかし、日本は小銭が多くて少し時間がかかりました。私はこれが後の人に迷惑をかけるのではないかと紙幣のみ使用しました。そうしているうちにいつの間にか小銭がとて多くなりました。

**Q.2** ここで生活していたら、親切にみんな待ってくれるのを見ました。私も一度二度硬貨を使用したら硬貨もたくさん減ってきて早く硬貨の数を小さく作る方法も学びました。例えば 564円だと、以前は千円で計算していたが、最近では 500円と 50円と 10円、そして 5円を出して、1円をおつりでもらっています。

**Q.3** 日本の人々に助けてもらったことはとても多いです。助けてもらったことが多すぎて全部言いにくいですが最近助けてもらったことを言います。銀行に行く用事があって行ったけどドアが閉まっていて ATM だけありました。それで、お金を払おうと思ったのですが、難しく助けて求めたら、それは現金で払えないと教えてくれました。それで私と一緒に他の銀行まで一緒に行ってくれました。その銀行は初めてでしたが色々してみると、その方はもういませんでした。私はもう一度感謝したいと言いたかったのですが、惜しかったです。次にもう一度会うことができたらあの時困難に陥って何もできなかった私を助けてくださって感謝すると伝えたいです。







Q. ピアノを始めたのはいつ頃からですか？

A. 4,5歳の時からです。母親に連れられて近所のピアノ教室に行き、始めました。でも体が弱く学校も休みがち、レッスンも細々続けていました。家族は皆音楽好きで、一緒に歌ったり、レコードを聴いたりしました。中学に入り、合唱部で伴奏をしたり、二声のアレンジを頼まれたり、クラスの曲を作ったりし、そのうち、音楽の勉強を専門に学びたいと思うようになりました。仕事にしたいというより、とにかく深く勉強したいという思いで音楽大学に入りました。

Q. ピアノ専攻ですか？

A. いえ音楽教育専攻です。声楽のレッスンも受けられ、それからの道を進む上でよかったと思っています。でもピアノへの思いに比重がありピアノで活動しています。

Q. どのような活動をされていますか？

A. 市内で知り合ったピアニスト仲間と3人で連弾ユニットを作り、定期的にコンサートを開いています。他に2つの小編成の音楽グループに所属しています。

Q. 市内では他にどのような活動を？

A. 私は夫の転勤で短期にあちこち移動することが多かったのですが、流山には15年ほど前に移住しました。住んで間もない頃ちょうど市役所で「サロンコンサート」をやっていました。「なんて素敵！」と思い、何かお手伝いさせていただけないかと、ちょうど熊坂先生がいらしたので直接思いを伝えました。これが先生との出会いです。流山音楽家協会にも入り、知り合った仲間とアンサンブルや連弾の活動など、落ち着いて仕事ができるようになりました。「ゆうゆう大学」でも熊坂先生とご一緒させていただいています。

Q. サロンコンサートにも出演されましたか？

A. はい何度か。でも毎月最終金曜日の開催なので、「ワーハモ」と重なることが多く。最近では出演していません。

Q. 「ワーハモ」のピアニストをお願いしてどのくらい？

A. 「ワーハモ」が始まる時からです。熊坂先生とご一緒に参りました。もう十何年になります。

Q. 初代ピアニスト、「ワーハモ」のことは何でもご存知で

すね？

A. いいえ(笑)今も何人かの方は続けて歌っています。

Q. ピアノ譜がない曲はご自身でピアノ部分をアレンジされるのですか？

A. はい、練習の初めはメロディ中心ですが、進むにつれて音を増やしていく方法を取ることが多いです。専門ではないので大変ですが楽しいです。

Q. レッスン中、歌を背中で聴いているピアニストはどのようにみんなと合わせているのですか？

A. 指揮は横で見ながら、あとは全体の流れ雰囲気を感じながらです。練習中には指揮の範囲内ですが、先生の意とする方向に改善していけるよう、微妙な調整をしながら弾いています。三位一体の気持ちです。

Q. 私は歌う時のピアノは「伴奏」というよりも「コンチェルト」という意識なのですか？

A. その通りです。「アンサンブル」と思ってもらえれば嬉しいです。歌とピアノが引き立て合いながら造る楽しさが音楽にはあります。

Q. 「ワールドハーモニー」は音楽でもありますか？

A. はい、特にステージではコーラスとピアノが一体になって作り上げる音楽を聴いていただけるように心がけています。

Q. レッスンで喜びや楽しさを感じる時は？

A. コンセプトの一つが「楽しさを伝える」ことなのでそれがシェアできた時です。また外国滞在や語学に堪能なメンバーの方々から、その国の文化などを教えてもらう機会も楽しいです。ワーハモの財産です。触発されて民族音楽にも興味を持ち勉強したりしています。

Q. メンバーへの要望、希望はありますか？

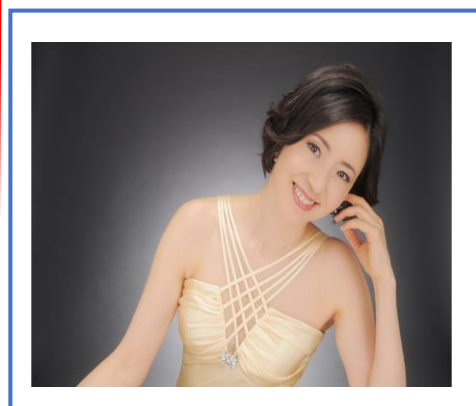
A. 皆さん楽しく長く続けてほしいです。

Q. 西澤さんにとりピアノとは何ですか？

A. 心を広く柔らかくしてくれるもの、です。

♥ 楽しいお話しありがとうございました。

(2020年4月17日インタビュー西山勝 「三密」を避けて)





## 外国語支援事業部レポート 実習生と企業の間でタガログ語の通訳

昨年4月から流山工業団地協同組合から依頼を受けて、ほぼ毎月タガログ語の通訳を行なっています。西深井にある同団地には15の企業があり、協同組合を組成しています。その中にフィリピンからの技能実習生を受け入れているところがあり、私たちNIFAが通訳のお手伝いをしています。

通訳は、実習する上での仕事の約束、ルールを伝えたり、必要な注意を行なったり、日々の生活での困りごとやアパートでの暮らしについて問題はないか、など実習生と企業間の意思疎通の役割を果たします。

担当してくださっているのは、ロナ雨沼さん、当初はロセール渋谷さんにもお願いしていました。「実習生の言っていることを正しく会社側に伝えること、そこに大変気を使います。」とロナさんは言っています。

実習生は1年目から3年目の人まで10人ほど、通訳は年次ごとに集まって行ないます。

協同組合はNIFAの活動を知って直接依頼を受けました。ロナさんにとり学んでいる日本語を実際に使う場でもありますが、とても大切な仕事として意気に感じています。

4月からも私たちの地道なサポートが続きます。



### 30周年標語応募結果

## 「広げよう世界の友と地域の輪」 NIFAはこれからもこれでいきます

NIFA 創立30周年を機に、進むべき道筋を標語にたく、会員の皆様から募集しました。

昨年12月から今年2月までの期間中、20名の方から43作品の応募がありました。

3月にはこれらの作品を皆様にお知らせし、標語にふさわしい作品の投票をお願いしました。(21名の投票)

3月末には実行委員会を開催し、この投票結果を参考に、選定を行いました。

その結果内藤茂昭さん(外国語支援事業部)の作品が最優秀に選ばれました。

他に小澤弥佐子さん(ホームステイ事業部)と荒井富子さん(文化交流事業部)の作品が佳作に選ばれました。

いずれの作品も皆様の投票と実行委員の投票が一致した結果です。

内藤さんの作品は、NIFAの活動を広くかつ深くとらえ、五七五のリズムで覚えやすく、高い評価を得ました。

これからも「NIFA NEWS」に掲載する他、機会あるごとに掲示します。

10月3日の記念式典で、3人を表彰します。

応募いただいた全43作品は、12月発行予定の記念誌でご紹介します。

応募いただいた皆様、投票いただいた皆様にお礼申し上げます。

佳作の作品を紹介します。

**「はじめの一步、NIFAであなとも国際人!!」**

小澤 弥佐子さん

**「NIFAで広げる国際交流 続け!羽ばたけ!**

**世界に向かって!」**

荒井 富子さん

## 過去に思いを馳せ、今を眺め、これからの想像を

### 創立30周年記念事業準備レポート

**Q:NIFAが設立されたのはいつ?**

**A:1991年(平成3年)5月1日です。よって創立30年目を迎えました。**

**Q:NIFAがNPO化されたのはいつ?**

**A:2011年(平成23年)10月31日です。よって今年の11月には10年目を迎えます。**

今年はNIFAにとり節目の年、この機会に30年前の先人の熱意に思いを馳せ、今では当たり前に行っている活動も試行錯誤を重ねながら進めた様子を思い浮かべ、NPO化する意味や可能性を議論した様子をたどるのは、意味のあることと考えます。

この考えを式典と記念誌に込めます。

記念式典を10月3日(土)、スターツおおたかの森ホールで開催します。式典、講演、レセプションの3部仕立てです。NIFAを育ててくださった各位、長年活動されてきた方に謝意を表し、市民の皆様にもNIFAを知っていただき、普段一堂に会する機会の少ない会員の皆様に交流していただく機会とします。

記念誌は、先人の皆様が作り上げてきた道をたどりながら、その時々を思いを記録し、現会員の皆様にも登場いただきながらこれから先どのような活動を目指すか語り合える内容にしたいと考えています。12月に発行する予定です。



新型コロナウイルスの感染が続く中、紙面も変更しました。皆様「Stay Home」「Social Distancing」で「見えざる敵」から身を守りましょう。(5月11日)小谷良美(部長)、西山勝、李明勲、谷口宏美、伊藤恵佑